

ひと あい えどがわ

No.32

発行日 / 2016.7.1
創刊日 / 2007.4.10

EDO GAWA
SINCE 2004
SOU GOU-JINSEI-DAIGAKU

<http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/>

◆ 11期生授業紹介

◆ 多彩な講師陣も人生大学の魅力です!

◆ Q & A あなたも、アナタも大歓迎!!



第11回 江戸川総合人生大学祭

**入場
無料**

「学ぼう・人の和・地域の和」
～生かそう あなたのできること!～

2016年 7月23日 (土)

【会場】 タワーホール船堀
1階展示ホール1・2
3階産業振興センター

10:00～16:00

スタンプラリーで
プレゼントをゲット!



ハッピーちゃんとあそぼう!

人 生 地域のために自分の力を活かしてみたい。江戸川総合人生大学はそんな方を応援するために
大 学 江戸川区が開設した大学です。(＊学校教育法で定める正規の大学ではありません。)

Q1. 江戸川総合人生大学とは?

→北野学長にお答えいただきました。

A. 一言で言うと、生き甲斐作りのお手伝いをする大学と言えます。健康で長生きするためには、適切な食事、適度な運動それに生きがいの3つが必要です。

生き甲斐とは何か?その答えは人により異なりますが、私は「人様のお役に立っているという自覚、他者から感謝されているということの自覚」がまさに生き甲斐と思っています。

大乘仏教の精神に「自利利他」という言葉があります。この言葉の意味は、「自ら仏道を修業して悟りを得るとともに、他者に仏法の利益を得させること」と広辞苑にあります。やさしく言えば、自分ばかりでなく人様のお役に立つことがいかに大切かを教える言葉とも理解できます。人と人との間の中で、人と人とのふれあいを持つのが人間であり、その結果が生き甲斐につながると言えます。江戸川総合人生大学はこのふれあいの場を提供します。年齢も社会経験も異なるきわめて多様性のある人の集団が、江戸川総合人生大学です。このふれあいの中で、ぜひ生き甲斐を見出してください。



学長 北野大

Q2. 年齢制限はありますか?

A. ありません。30代から90代までと幅広い世代の方が学んでいます。

Q3. 入学には試験がありますか?

A. 試験はありませんが、入学は書類選考のうえ決定します。定員を超えたお申し込みがあった場合は抽選となります。

Q4. 資格はとれますか?

A. 授業を受けることで取得できる資格はありません。学びから興味が深まり、個人的に試験を受け、資格を取得する方はいます。

Q5. 江戸川まちづくり学科では1年次に何を学びますか?

→江戸川まちづくり学科の学生がお答えします。

A. 将来、自分が取り組むテーマを探し、2年次に行う社会活動の実践に対する基礎づくりのために、見聞を広め知識を高める授業を受けます。

前半はまちに出かけ地域で活躍している方々の活動を見、聞き、意見を交換します。遠足のように楽しい授業が続きます。

中盤は、教室での講義やグループワークが主体となります。会議を円滑に進める手法などに加えていろいろな活動事例を学びます。

後半は、学びの集大成として各自が気にかかる「地域の課題」について調査し、講師、同期生、OBの前で工夫をこらした発表をします。発表方法は、パソコン、模造紙、紙芝居、寸劇などいろいろです。

また私たちは、授業後の3分間スピーチや新年会、お花見などを企画、実施し仲間との絆を深めています。

学科長からのひとこと



学科長 佐谷和江

江戸川区をより暮らしやすいまちにするために、2年間かけて「自分に何ができるか?」を考えていく学科です。防災、交通、住まい、みどりや水辺、歴史・文化、景観、地域コミュニティなど、いろいろな視点から江戸川区を再発見していきます。また、授業はアクティブ・ラーニングと呼ばれる能動的な学習が中心で、課題研究や討論、発表などを通じて楽しく実践的に学んでいきます。さらに、様々なグループ学習を行うので、生涯のクラスメイトが出来ることも特徴です。

Q6. 国際コミュニティ学科とは何を学ぶ学科ですか？

→国際コミュニティ学科の学生がお答えします。

- A. 主に江戸川区に居住するさまざまな国の歴史や文化などを学び、共に理解し交流を深め合っていくために何ができるかを考える学科です。授業は日本語ですので、外国語ができなくても学ぶことができます。

Q7. この学科の「雰囲気」を簡潔に紹介してくれますか？

- A. 幅広い年齢層で、しかも多様な経歴を持った方々で構成されている学科です。生徒数も多くないことから親密感や連帯感もあり、皆さんとても楽しく学んでいます。

学科長からのひとこと



学科長 ジョージ・W・ギッシュ

様々な世界の地域から江戸川区に住み暮らす人々と共にコミュニティづくりすることは国際コミュニティ学科の目的です。つまりこの学科に入学する学生同士が在住外国人と友となり、多文化共生社会を作り上げる担い手になります。その一つの例は、外国出身の方々は江戸川区で生活するために、まず、日本語を取得することが大切な課題です。当学科の学生には、その手伝いが出来るような授業があります。新しい出会いによって自分の可能性を発見することが必ず出来ます。どうぞ、それに挑戦してみてください。

Q8. 子ども・子育て応援学科ではどのような講義が受けられますか？

→子ども・子育て応援学科の学生がお答えします。

- A. この学科は年齢を問わず子育て経験がなくとも入学できます。教育学、保育学、心理学などの専門家からの講義を受けたり、実践者の方の活動についてお話を聞くこともあります。このような授業から子ども同士や大人と子どもとの関わり合いの重要性や、子育てにおいて何が重要かを考えます。誰でも楽しく学ぶことができます。

学科長からのひとこと



学科長 笹井宏益

毎回和気あいあいとした雰囲気です、楽しく授業が進められています。授業は、子どもの成長発達に関する様々な知見を身に付ける部分と、悩んでいる人たちに寄り添いどうしたら良い子育てができるかを考える部分、さらには、実際の現場を視察したり関係者を招いたりして地域の現場を体験する部分、の3つの柱で構成されています。子どもは地域の宝。あなたも、地域の未来を創るこの学科の活動に参加してください。

Q9. ボランティア以前に基本的知識がなくても介護・福祉学科の授業についていけますか？

→介護・福祉学科の学生がお答えします。

- A. 介護・福祉学科12期生の私たちは基本的な経験、知識もなく入学しました。各講師の方々の分かりやすい講義、指導により、高齢化時代に健康で、生き甲斐ある人生を過ごすための知識、経験は入学してから学ぶことができます。授業には、介護施設、福祉施設、新しい試みのデイサービス等の学びがあります。卒業後の方向は、それぞれが選択し、在学中に学んだことを基礎に既存のボランティア団体に登録し、また仲間と共に新しい団体を作り活躍している人もいます。まず入学しましょう。

学科長からのひとこと



学科長 村田幸子

介護や福祉の知識を持っていることは、高齢期の暮らしをつくり上げるうえで大きな力になります。「老い」は誰にも訪れますが、「いきなり」はやってきません。一人一人が自分の高齢期の青写真を描き、持てる能力を地域に還元することによって、地域社会は活性化します。江戸川区でどんな高齢期を過ごしたいですか。共に考え、実践を目指すのが「介護・福祉」学科です。

多彩な講師陣も人生大学の魅力です！

江戸川まちづくり学科

- ・佐谷和江(まちづくりコンサルタント、(株)計画技術研究所代表取締役)
- ・竹辺和代(ファシリテーター、参画はぐくみ工房代表)
- ・江戸川区都市開発部
- ・木下勇(千葉大学教授)
- ・長田英史(NPO法人れんげ舎代表)

国際コミュニティ学科

- ・ジョージ・W・ギッシュ(青山学院大学名誉教授)
- ・霜島和子(区民教授)
- ・名取芳彦(密蔵院住職)
- ・宋連玉(青山学院大学教授)
- ・初鹿野恵蘭(認定NPO法人日本・雲南聯誼(れんぎ)協会理事長)
- ・インディラ・バット(江戸川インド人会副会長)
- ・山上亜紀(元成蹊大学アジア太平洋研究センター客員研究員)
- ・千田綾(多文化共生センター東京スタッフ)
- ・矢郷恵子(毎日の生活研究所代表)
- ・田辺邦子(タイ・チャムクワンサトリスクール 外国語科 日本語専任講師)
- ・佐藤信行(RAIK 在日韓国人問題研究所、立教大学講師)
- ・柗木典子(多文化共生センター東京代表理事)
- ・佐谷和江(江戸川まちづくり学科学科長)
- ・徳増公明(宗教法人日本ムスリム協会会長)
- ・ラビンダー N. マリク(政治学博士、慶應義塾大学非常勤講師、元国連大学学長室長)

子ども・子育て応援学科

- ・笹井宏益(国立教育政策研究所生涯学習政策研究部長)
- ・秦野玲子(RE Learning 代表)
- ・森木美佐子(東京ベテール代表)
- ・友野清文(昭和女子大学総合教育センター教授)
- ・林浩子(立教女学院短期大学准教授)
- ・宇田川久美子(相模女子大学学芸学部子ども教育学科准教授)
- ・山本健慈(国立大学協会専務理事(前和歌山大学長))
- ・奥山千鶴子(NPO法人「びーのびー」代表)
- ・江戸川区子ども家庭部児童女性課子ども家庭支援センター相談係係長
- ・渡辺友香(臨床心理士)
- ・斉藤洋子(江戸川遊ぼう会代表)
- ・狩野賢(若者きずな塾塾長、キャリアコンサルタント)
- ・西村彩恵(川村学園女子大学教育学部幼児教育学科助教)
- ・江戸川区教育委員会事務局教育推進課すくすくスクール係長
- ・ジョージ・W・ギッシュ(国際コミュニティ学科学科長)

介護・福祉学科

- ・村田幸子(福祉ジャーナリスト、元NHK解説委員)
- ・矢郷恵子(毎日の生活研究所代表)
- ・江戸川区福祉部長
- ・江戸川区福祉部福祉推進課計画係長
- ・大淵修一(東京都健康長寿医療センター研究所高齢者健康増進事業支援室長)
- ・藤原茂(NPO法人「夢の湖舎」理事長)
- ・木村美佳(NPO法人国際生命科学機構健康推進協力センター [ILSI Japan CHP])
- ・加藤昌男(NHK日本語センター専門委員)
- ・早瀬昇(NPO法人日本NPOセンター代表理事、大阪ボランティア協会常務理事)
- ・山本國子(江戸川区福祉ボランティア団体協議会副会長)
- ・杉山孝博(川崎幸クリニック院長)
- ・菅原弘子(介護相談地域づくり連絡会事務局長、全国キャラバンメイト連絡協議会事務局長)
- ・大貫正男(司法書士、社団法人成年後見センターリーガルサポート元理事長)
- ・坪山芳栄(慶成会老年学研究所研究員)
- ・芹澤隆子(NPO法人日本ダイバーサルセラピー協会理事長)
- ・田村弘子(介護付有料老人ホーム「星にねがいを」施設長)
- ・池田昌弘(NPO法人全国コミュニティライフサポートセンター理事長)
- ・平岩千代子(NPO法人シニアライフ情報センター理事)

- ・本間郁子(NPO法人Uビジョン研究所理事長)
- ・勝部秀美(社会福祉法人「伯耆の国」地域連携コーディネーター)
- ・小菅紀子(医療法人財団健和会「訪問看護ステーション」統括所長)
- ・石飛幸三(世田谷区立特別養護老人ホーム「芦花ホーム」常勤医師)
- ・石黒秀喜(長寿社会開発センター審議役)
- ・河田珪子(支え合いの仕組みづくりアドバイザー)
- ・鷲尾公子(NPO法人ぐるーぷ藤理事長)
- ・惣万佳代子(NPO法人このゆびとーまれ代表)
- ・江戸川総合人生大学卒業生の活動団体

えどがわ入門

- ・多田正見(江戸川区長)
- ・北野大(江戸川総合人生大学長)
- ・江戸川区文化共育部長
- ・江戸川区環境部長
- ・江戸川区土木部長
- ・江戸川区危機管理室長
- ・江戸川区生活振興部長
- ・江戸川区福祉部長
- ・江戸川区子ども家庭部長
- ・江戸川区教育長

地球環境を考える身近な活動

- ・北野大(江戸川総合人生大学長)
- ・古瀬浩史(一般社団法人葛西臨海・環境教育フォーラム理事、帝京科学大学教授)
- ・山田和伸(NPO法人雨水市民の会理事)
- ・池谷奉文((財)日本生態系協会会長)
- ・佐々木洋(プロナチュラリスト)
- ・山崎求博(NPO法人足温ネットえどがわ副代表)
- ・藤村研介(非電化工房副代表)
- ・松田美夜子(生活環境評論家、元富士常葉大学環境防災学部教授)
- ・大和地弘一(NPO法人えどがわエコセンター副理事長、環境省・環境カウンセラー)
- ・岡島成行(NPO法人えどがわエコセンター会長、青森山田学園理事長)

みんなで創る安全・安心

- ・山本俊哉(明治大学理工学部教授)
- ・江戸川区危機管理室防災危機管理課長
- ・細川顕司(防災アドバイザー)
- ・坪井聖太郎(公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構阪神淡路大震災記念人と防災未来センター 研究部)
- ・小岩消防署地域防災担当係長
- ・小野寺百合子(保護司)
- ・小松川警察署生活安全課防犯係長
- ・古河恵子(消費生活問題研究所)

くらしと健康

- ・吉見逸郎(江戸川区健康部地域医療担当課長)
- ・廣津卓夫(ひろつ小児科院長)
- ・小暮堅三(小暮医院院長)
- ・安藤靖子(管理栄養士)
- ・橋場隆(臨床発達心理士スーパーバイザー)
- ・小川勝(小川クリニック院長)
- ・落合俊輔(落合歯科医院院長)
- ・友末幸子(健康体操講師・東京都エアロビック連盟理事)
- ・小岩消防署警防課救急係司令補
- ・玉城繁(江戸川区医師会会長、玉城医院院長)

カウンセリングの基礎

- ・諸富祥彦(明治大学教授)
- ・大竹直子(千葉大学カウンセラー、臨床心理士)

江戸川総合人生大学平成27年度講師(実績)



入学案内

人生大学の概要、募集要項、学科のカリキュラム／特徴等がわかります。

人生大学

検索



ホームページ

イベントや公開講座の案内、授業風景等、人生大学に関することなら何でもわかります。



※入学案内は区役所、各事務所、図書館、コミュニティ会館等にあります。

11期生授業紹介



江戸川まちづくり学科

いまむかし

暮らしと安全・今昔

連休初日で残念ながら雨という状況の中、3月19日(土)に篠崎文化プラザ講義室において午後1時より70名を超えるゲストをお迎えし、落語・民具・消防の今昔そして救命と盛りだくさんのイベントを開催しました。



小宮さん提供のわらは使いやすい！

「暮らしのコーナー」と「安全のコーナー」のふたつに分けました。暮らしのコーナーでは、昔の民具(竿ばかり、天秤棒、自在かぎ、わら細工で縄作り)を實際手に取り楽しく体験していただきました。また、落語の席を設け「昔の暮らし」を一席。

安全のコーナーでは消防にスポットを当て、東京消防庁・消防博物館の杉浦館長をお迎えし、江戸時代の消防と現代の消防について映像を見ながらわかりやすく解説していただきました。また、小岩消防署のご協力を得て救急救命のAEDの使用方法、住宅用火災警報器のデモンストレーション、パネル展示などを体験しました。

どちらのコーナーも生活に密着した体験イベントだったと好評を得ました。

担当：叶内元也、加藤道雄

国際コミュニティ学科

Discover Edogawa Ward Face to Face

2月13日(土)にイベントを実施しました。

日本の文化や暮らしを、外国人向けに英文併記で展示しました。健康コーナーでは、血圧測定を行い、来場者全員で健康体操を行いました。また、外国人には分かりづらいと言われるゴミの分別を、ゲームを通して紹介しました。2020年東京オリンピック・パラリンピック大会のカヌー・スラローム競技が江戸川区で行われる予定なので、競技のビデオを放映し、パネルやオールを展示しました。



トーゴ共和国大使館職員のお話

トーゴ共和国大使館職員と在日韓国人の方をゲストに招待しました。西アフリカにあるトーゴの話や、韓国人と日本人の気質の違いなどをうかがいました。

テーマがうまく伝えられたか、課題は残りました。「大事なのは、この実践を次の段階につなげることです」というギッシュ学科長の言葉を受け、各プロジェクトの活動を発展させるべく、次のステップを踏み出したいとおもいます。

担当：大宮信一郎、柳澤千夏

子ども・子育て応援学科

多文化共生の観点から子育てを考える

子ども・子育て応援学科では「多文化共生の観点から子育てを考える」をテーマにした講義が行われました。

国際コミュニティ学科長のギッシュ先生の講義から始まり、現在江戸川区で海外から来た子どもの支援活動を行っている方がゲストで来てくださり、子どもの現状や活動内容のお話をしてくださいました。



ゲストの方からお話をうかがいました

ゲストの中に中国から来られた方が2名おられ、日本と中国との考え方や捉え方の違いや生活習慣の違いなどで、子育ても苦労されたお話などうかがいました。

そのお話の中でも一番印象に残ったのは言葉の問題です。日本語が分からないために、何をしても良いか分からず、どうしても消極的になってしまうので、積極的に日本人からコミュニケーションをとってくれると助かるそうです。

国が違えば文化も習慣も違うことを理解した上で、日本人同士でも世代が違えば、考え方が変わってくることを、再度認識し、子ども達に何をしてあげられるのか、難しいテーマでしたがとても有意義な講義でした。

担当：長倉尚子、山内康

介護・福祉学科

楽しく 元気に 介護予防イベント

3月5日(土)「介護予防イベント・運動会」を開催しました。「楽しく、元気に」をテーマに4グループに組み分けして、手作りの競技に取り組みました。当日は入り口に万国旗を飾り付けて運動会モード満点。



手話を取り入れた体操

①ミニ運動会班は玉送り、風船バレー、玉入れ

②ミニゲーム班は手づくりの吹き矢、輪投げ、ダーツと簡単工作良く飛びパッチンカエル作成コーナー

③体操班は参加者全員による「手のひらを太陽に」「ふるさと」等の歌に合わせて手話を取り入れた体操

④いやし班は急きょ特訓した「なごみのハンドケア」

事前にチラシを配布し、当日も多くの親子づれに呼びかけるなどで約80名強の参加者を得て成功裏におわりました。

担当：大野一雄、中村高興

江戸川総合人生大学 新入生募集中！

今年10月から始まる第13期生を募集しています。
共に学び、楽しさ・発見・驚きを実感しませんか？

【申込資格】 区内在住・在勤・在学の方

【修学期間】 2年間

【授業料】 年間3万円

【申し込み】 区役所・各事務所・図書館・コミュニティ会館などにある「入学案内」に添付されている入学願書に必要事項をご記入の上、江戸川総合人生大学(〒133-0061 江戸川区篠崎町7-20-19)へ郵送または持参してください。

【問合せ】 03-3676-9075

学科名	授業実施曜日、時間
江戸川まちづくり学科	金曜日 14:00～16:00
国際コミュニティ学科	火曜日 10:00～12:00
子ども・子育て応援学科	木曜日 10:00～12:00
介護・福祉学科	火曜日 14:00～16:00



ご存知でしたか？表紙の彫像



彫像名 「白鷺の像」（1983年12月）
作者名 作者不詳
所在地 船堀3-6 船堀駅南口

台座碑文（原文のまま）

「かつてこの地は、白鷺が群れ交うのどかな田園地帯でした。寄り添うように並んだ雌雄の白鷺は、信頼と愛情をあらわしています。新しい生命を育みながら、人間性ゆたかな未来をさすいでゆくことを希って」

前号では母性愛を表現した作品が掲載されましたが、今回は意図したわけではないにもかかわらず夫婦愛がテーマの作品です。この作品は、一生同じ相手だけを伴侶とする優雅な白鷺を表現することで、碑文にあるように夫婦の間にある信頼と愛情を表しています。またこの作品は、都営新宿線東大島～船堀間の開業に合わせ1983年

12月22日この地に設置されました。

南北の交通が不便な江戸川区にあって、船堀は私の住む小岩から最も不便な場所のひとつです。そんな船堀に行き1時間に一本程度の小岩行きバスを待っている時にふと見かけたのがこの作品でした。そして天に向かって伸びあがる優雅な姿に心を惹かれました。それから作品の周りを一めぐりし、碑文を読んでちょっとした勘違いに気がつきました。この作品は、鶴ではなく白鷺だということに。

あらためて、つかいの白鷺が仲良く立つ姿を眺めて、海岸線が近い静かな田園地帯にたたずむ白鷺の姿が思い浮かびました。生涯、お互いだけを伴侶とする白鷺のような生き方も大切だと思います。

まち12期 箱島 実

江戸川区少年少女合唱団

「音楽は世界共通の言語」と昔から言われてきましたが、区内に音楽で世界と交流を深めている団体があると知りました。それは30年余りの歴史を誇る「江戸川区少年少女合唱団」です。総務の用松さんにお会いし、合唱団について教えていただきました。

美しい合唱で地域や世界とつながっていく懸命な青少年の姿は、私たち地域貢献を目指す大人にとっても大きな刺激となります。（国際11期 大宮信一郎）

江戸川区少年少女合唱団は創立(昭和62年)から今年度で30周年を迎えます。当初の目的の音楽を愛する心を育み、地域社会との関わりを深めることを基本として、小学3年から高校2年生が対象です。毎週土・日曜日に一之江小学校で練習、夏季には合宿所でハードな練習に励んできました。団の定例行事としては9月のミニコンサート、3月の定期演奏会、そして区の行事では長寿の祝い・合唱祭・音楽祭・成人式等で演奏しています。他に平和コンサート・全日本ジュニアコー

ラスフェスティバル等があります。また海外合唱団との交流は初年度にタピオラ少年少女合唱団と、またハンガリー・スウェーデン・ブラハ・ウィーン・リトアニア等10数回に及び共演してきました。加えて平成13年8月には江戸川区の姉妹都市オーストラリアゴスフォード市に訪問演奏、昨年にはリトアニア大使を招き、青少年合唱団との共演も行いました。設立から16年目の平成14年迄は学校の音楽教諭が指導していましたが、さらなる向上を目指し、平成15年にはプロの指揮者も加わり指導しています。現在では常任の指揮者・ピアノ・発声・総務等の役割を分担し団長以下7名で指導に当たっております。また演奏内容によっては演出家・振り付け・舞台監督等

演奏の充実に取り組んでいます。

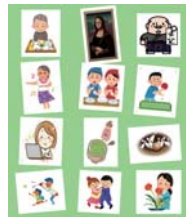
これまでの数々の演奏活動で地域との関わり等の実績と共に青少年団体の模範となる行動で評価され、平成9年に東京都の青島幸男知事より表彰状、平成26年に、子ども達に夢と希望を与え情操教育と児童合唱音楽振興が認められ、第19回小黒恵子児童合唱音楽振興基金より「花とライオン児童合唱音楽賞」(全国で1団体)を受賞することが出来ました。本年度はさらに飛躍するため、海外との交流も行い音楽活動の視野を広げることができればと8月にはオーストリアのウィーンの国立歌劇場で公演する予定です。

今年は9月、来年は3月に定期演奏会を開催します。ぜひ、ご来場を!!

もちまつやよい
総務 用松彌生



同窓会の窓



昨年から検討を重ねてきた「同窓会クラブ活動」が6月にスタートしました。

クラブ数も、外部講師を含め多くの方の協力を頂いて、ダンス(社交ダンス・フラダンス)・卓球やボウリング等「運動部」系と、美術・フェイスブック・茶道・いけばな等「文化部」系、併せて12クラブが立ち上がり、体力・知力の維持増進にも役立つ、充実した内容になっています(新規クラブも継続募集中です)。

クラブ活動は、多くの方が学生時代等にうちこんだ、楽しい経験をお持ちだと思います。また、その時の仲間との親し

い交流が今でも続いているという方も居られるでしょう。

同窓会クラブ活動も、個々の生活を一層充実させると共に、趣味や興味のあることを一緒に楽しむ事で、会員同士の輪が今よりもっと広がると思います。

同窓会の活動ではありますが、江戸川総合人生大学在校生の参加も大歓迎です。気軽に同窓会に相談して下さい。

同窓会会長 前田 直義 (国際9期)

同窓会ホームページ <http://jinseidaidousou.web.fc2.com/>
 人大ボラ連メールアドレス jindaiboraren@yahoo.co.jp

編集後記

桜の花が満開になったと思ったらもう本格的な暑さの季節になりました。時がたつのが早すぎるように思われる今日この頃です。11期生にとっては7月23日(土)の大学祭と9月の卒業式を残すのみとなりましたが、なごり惜しいという気持ちとまだ何かできるのではとの思いが交差しています。

「ひと あい えどがわ」32号ではこれまでに多かった質問をQ&A方式で掲載しました。新しい試みとして学長・学科長にコメントをいただくとともに講師の先生の氏名等を一覧表として掲載しました。江戸川総合人生大学を区民の皆さんによく知っていただくにはどのような形にしたらいいか、これからも考えていきたいと思っています。

編集長 加藤 道雄(まち11期)

編集：「ひと あい えどがわ」編集委員

[11期生] 加藤道雄、叶内元也(まち) 大宮信一郎、柳澤千夏(国際)
 長倉尚子、山内康(子ども) 大野一雄、中村高興(介護)

[12期生] 榎本清一、箱島実(まち) 大島なお美、白坂敬三(国際)
 秋山ヨシ子、一山輝江(子ども) 熊谷富雄、西峰正二(介護)